

第88号 2011年7月15日

発行 財団法人枚方市文化財研究調査会
〒573-0155 大阪府枚方市藤阪天神町5番1号
Tel 072(858)2852 / Fax 072(858)3757
http://www.eonet.ne.jp/~hirakatabunkazai/

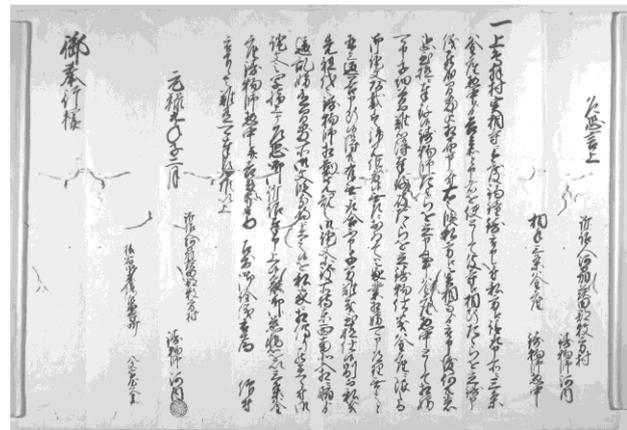


実相寺梵鐘（縦帯・池ノ間部）

実相寺梵鐘銘文

〔陽鑄〕
山城国上鳥羽
正覚山実相寺
元禄九（丙）子
四月八日營之 日賢（花押）

〔陰刻〕
〔治工〕
落陽三条釜座住
貝島浄安
同甚左門
藤原吉信作



田中仁幸家保管文書（C13-03）

じっそうじ 上鳥羽実相寺の梵鐘

右下写真は、現在調査中の田中家所蔵文書で確認された古文書です。ここから、元禄9年(1696)2月枚方村田中家が、現在も京都市南区上鳥羽に所在する実相寺から梵鐘を注文されたこと、鑄造に際して田中家は現地で鑄込む出職^{でしやく}で梵鐘を製作しようとしたこと、しかし三条釜座の鑄物師から差し止めがあったこと、結果田中家は奉行所へ訴え出ようとしたことなどがわかります。

江戸時代、田中家が鑄造した梵鐘・半鐘などの撞鐘類^{つきかね}は、在郷鑄物師として周辺の鑄物師に比して多く、かつ広範囲に分布したことが知られています。これまで、戦時中の供出で亡失したのものも含めて70口が確認されていますが、実相寺の梵鐘は知られていませんでした。左上写真は実相寺梵鐘です。鐘銘には元禄9年4月8日の年月日と当時の住職の名の陽鑄、他に多数の奉加者の名とともに、治工として三条釜座住人の名の陰刻^{いんこく}がありました。訴訟の結果でしょうか、梵鐘は文書作成の2ヶ月後、三条釜座の鑄物師の手によって鑄造されました。新しくなった実相寺の鐘楼で今も大切にされている実相寺の梵鐘、田中家文書調査はその歴史的背景を明らかにしてくれます。